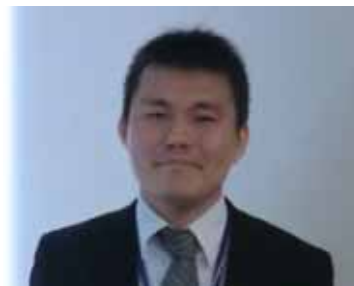


携帯限定層の動向

—2013年全国20代郵送調査の分析結果から—

Trends in the Cell-Phone-Only Population: Analytical Report Based on a 2013 Nationwide Mail Survey of People in Their Twenties



石本 登志男

- | | |
|-------------------|------------------|
| 1. はじめに | 5. 20代携帯限定層の意識分析 |
| 2. 定義 | 5-1. 内閣支持率と政党支持率 |
| 3. 携帯限定層の推移 | 5-2. 投票行動（前回参院選） |
| 4. 20代調査と全年代調査の結果 | 5-3. 政治・社会関心度 |
| 4-1. 年代、年齢別 | 5-4. 目標設定の高さ |
| 4-2. 内閣支持率と政党支持率 | 6. まとめ |
| 4-3. フェイス項目別 | 7. おわりに |

<要旨>

「携帯限定層」が増えてきて、彼らの意識傾向が全体と比べてどのように異なるかを理解することが必要となってきている。「携帯限定層」は特に若者に多い。最近の郵送調査では20代後半の45%が「固定電話を持たない」と答えている。過去の郵送調査の結果を調べると、年を経るごとに、「携帯限定層」は30代にも広がっていることが分かった。これまでのところ全年代の調査では「携帯限定層」の影響は少ないとされるが、今後も広がっていくことを考えると、無視できなくなるだろう。本稿では、2013年11～12月に実施した全国20代郵送調査の結果を分析し、そこでわかった20代の「携帯限定層」の特徴について述べる。

The cell-phone-only (CPO) population is growing. Therefore, surveyors are required to assess differences between their opinions of this trend and the overall average. The young CPO population is quite large. According to a recent mail survey, 45 percent of individuals in their late twenties responded that they did not have a landline phone. The results from previous mail surveys indicated that the CPO population comprising of people in their thirties has grown over the years. To date, the results have suggested that the impact of the CPO population has not been overly significant. However, as the CPO population continues to increase, it is unlikely that its influence can be ignored for long. In this study, we analyze the nationwide mail survey targeting people in their twenties that was conducted between November to December 2013. We then revealed the characteristics of the CPO population whose ages fell under the twenties range.

1. はじめに

固定電話をもたない人が増えている。彼らは、固定電話を持つ世帯に電話をかける RDD 法の世論調査のカバレッジに入らなくなるため、「マスコミの世論調査は、携帯電話しか持たない今どきの若者の意見がとれていないのではないか」という批判がある。これまでも、「携帯限定層」がカバーできていないことが調査全体にどのような影響を与えるか、という問題に対して研究されてきた。

本稿では、朝日新聞社が 2013 年 11～12 月に 20 代 3000 人を対象にして実施した郵送世論調査（有効回答数 1839）を用いて、「携帯限定層」に特徴的な意識の差があるかについて、分析した結果を報告する。

2. 定義

郵送調査では、固定電話を持たない人たちの層も調査のカバレッジに入る。対象者の固定電話保有について明確にするため、朝日新聞社の郵送調査では、図表 1 の質問 A のように聞いている（2008 年 6～7 月以降）。また、固定電話と携帯電話の利用頻度について聞いているのが、質問 B である（2010 年 2～3 月以降）。

図表 1. 電話の保有と利用に関する質問

<p>（質問 A）ところで、あなたのお宅には、家庭用の固定電話がありますか。（携帯電話のみの方は「ない」にマル）</p> <p>1. ある 2. ない</p> <p>（質問 B）ご自分の家の中で、あなたが電話で人と話すときには、「ご家庭の固定電話」と「携帯電話」のどちらをおもに利用していますか。あなたの利用状況に一番近いものを 1 つだけ選んでください。</p> <p>1. 携帯電話しか利用していない</p> <p>2. ほとんど携帯電話を利用し、たまに固定電話を利用</p> <p>3. どちらかといえば携帯電話の利用が多い</p> <p>4. どちらかといえば固定電話の利用が多い</p> <p>5. ほとんど固定電話を利用し、たまに携帯電話を利用</p> <p>6. 固定電話しか利用していない</p> <p>7. その他（記入欄） _____</p>
--

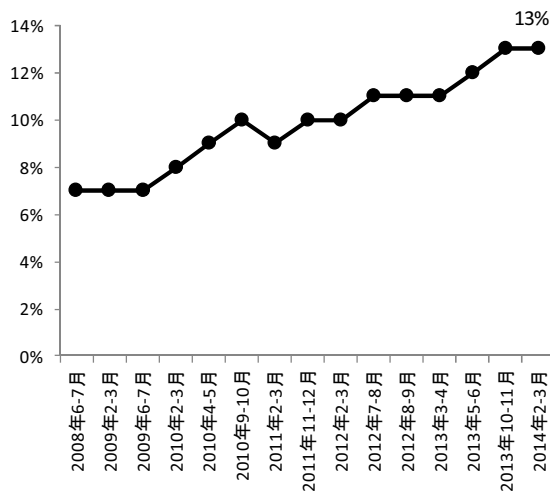
ここでは、質問 A で「（固定電話が）ない」と答えた層を「携帯限定層（CPO : Cell Phone Only）」と定義する。また、質問 B の選択肢のうち、携帯電話利用度が高い「携帯電話しか利用していない」と「ほとんど携帯電話を利用し、たまに固定電話を利用」と答えた層を合わせて「携帯依存層」とし、その中から「携帯限定層」を除いた層を「携帯中心層（CPM : Cell Phone Mostly）」と定義する。「携帯中心層」は、固定電話は保有しているが電話による接触は携帯電話

中心だという層のことであり、将来は「携帯限定層」になる可能性がある予備軍として捉えられる。

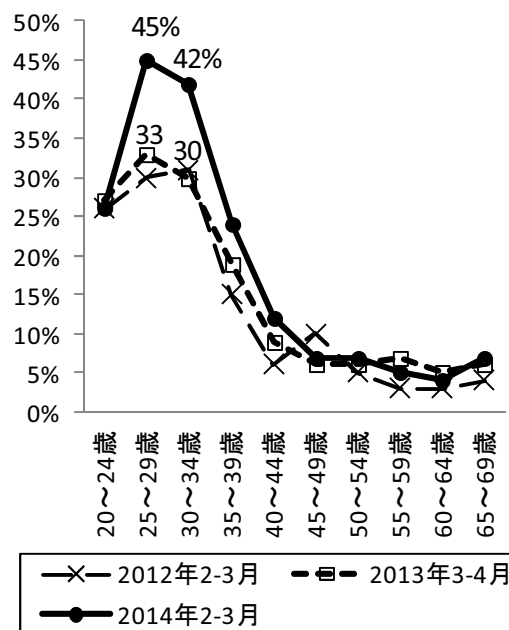
3. 携帯限定層の推移

上述のように定義した「携帯限定層」は、年を経るごとに微増の傾向が見られる。2008 年 6～7 月調査では全体の 7%であったのに対し、2014 年 2～3 月調査では全体の 13%まで増加した（図表 2）。年代別に携帯限定層の割合を見ると、2013 年から 2014 年の 1 年間で、「25～29 歳」や「30～34 歳」ではそれぞれ 12 ポイントも増加しており、その急増ぶりがうかがえる（図表 3）。

図表2. 携帯限定層の推移



図表3. 年代別で見た携帯限定層



4. 20代調査と全年代調査の結果

本稿では、「携帯限定層(CPO)」、「携帯中心層(CPM)」、「それ以外(etc.)」の3つの階層を使って、「携帯限定層」の特徴を調べる。その際、朝日新聞社が行った2013年11~12月の全国20代郵送調査（ここでは「20代調査」と呼ぶ）と2014年2~3月の全国郵送調査（全年代が対象；ここでは「全年代調査」と呼ぶ）とを比較する。

4-1. 年代、年齢別

すでに述べたように全年代調査では「携帯限定層」は全体の13%で、「25~29歳」で45%、「30~34歳」で42%と多めになっているが、20代調査では、20代の携帯限定層について、より詳細な結果が得られた。この調査は、選挙人名簿から3000人の2013年6月30日時点で20代だった有権者を抽出している（つまり、生年月日が1983年7月1日~1993年6月30日）。調査票の選択肢では「20~24歳」、「25~29歳」の2項目だったが、抽出作業の際に書き留めた対象者の生年月日を見ることにより、「20歳」、「21歳」、…、「29歳」と1歳ごとに分類できる。図表4のように20代で年齢別に携帯限定層の割合を表にしてみると、「20歳」から「22歳」までは20%弱だが、「23歳」から急増し、20代後半、特に「27歳」から「29歳」で携帯限定層の割合がピークになっていることがわかる。（ただし、選挙人名簿から書き留めた名簿の生年月日では「21歳」の対象者が、調査票の質問では「25~29歳」と答えているなど、整合性がとれなかった票と無回答票の計43票は「分類不可」として、1歳ごとの分類には含めていない）

図表4. 年齢（年代）ごとの携帯限定層と携帯中心層（左が20代調査、右が全年代調査）

20代調査

[有意差の検定] ▲▼は有意水準95%、△▽は90%

割合	度数	携帯限定層	携帯中心層	それ以外		
20代全体	100%	1839	36%	56%	8%	
(質問) あなたは、6月30日時点で何歳でしたか。						
20～24歳	46.4%	854	▼ 26%	▲ 65%	9%	
25～29歳	53.1%	977	▲ 45%	▼ 48%	7%	
無回答	0.4%	8	-	▽ 13%	▲ 88%	
2013年6月30日時点の年齢（選挙人名簿の生年月日ベース）						
20歳	8.6%	158	▼ 19%	▲ 70%	11%	
21歳	9.1%	167	▼ 19%	▲ 71%	10%	
22歳	9.5%	174	▼ 17%	▲ 72%	10%	
23歳	8.8%	162		34%	60%	6%
24歳	10.0%	184		38%	55%	7%
25歳	9.2%	169		37%	56%	7%
26歳	10.4%	192		43%	50%	7%
27歳	9.7%	178	▲ 48%	▼ 45%	7%	
28歳	11.8%	217	▲ 49%	▼ 47%	4%	
29歳	10.6%	195	▲ 49%	▼ 44%	7%	
分類不可	2.3%	43	30%	40%	▲ 30%	

全年代調査

[有意差の検定] ▲▼は有意水準95%、△▽は90%

割合	度数	携帯限定層	携帯中心層	それ以外		
全年代	100.0%	2045	13%	40%	47%	
(質問) あなたは、いま何歳ですか。						
20～24歳	3.6%	73	▲ 26%	▲ 70%	▼ 4%	
25～29歳	4.9%	100	▲ 45%	49%	▼ 6%	
30～34歳	7.3%	149	▲ 42%	44%	▼ 14%	
35～39歳	8.3%	170	▲ 24%	▲ 53%	▼ 23%	
40～44歳	8.7%	178		12%	▲ 54%	▼ 34%
45～49歳	7.7%	157		7%	▲ 54%	39%
50～54歳	8.0%	164	▽ 7%		45%	49%
55～59歳	7.2%	147	▽ 5%	▲ 52%	43%	
60～64歳	10.2%	208	▼ 4%		40%	△ 56%
65～69歳	9.6%	196	▽ 7%	▽ 32%	▲ 61%	
70～74歳	8.7%	177	▼ 3%	▼ 27%	▲ 71%	
75～79歳	8.2%	167	▼ 4%	▼ 14%	▲ 83%	
80～84歳	4.0%	81	▽ 4%	▼ 9%	▲ 88%	
85歳以上	3.4%	70		6%	▼ 9%	▲ 86%
無回答	0.4%	8	-		13%	88%

4-2. 内閣支持率と政党支持率

内閣支持率と政党支持率を比較する。固定保有層（固定電話が「ある」層）と全体とで比較すると、若干の差はある。政党支持では、全年代では全体と携帯限定層を比較すると無党派層が多めであることが1つの特徴となるが、20代調査では逆に若干少なめになっている（図表6参照；朝日新聞社の調査では「支持政党なし」と答えた層と、無回答の層を合わせて「無党派層」と呼ぶ）。

図表5. 内閣支持率（左が20代調査、右が全年代調査）

20代調査

	支持する	支持しない
全体	53	33
固定保有層	52	35
CPO	55	29
CPM	53	35
etc.	48	36

全年代調査

	支持する	支持しない
全体	52	39
固定保有層	52	40
CPO	57	37
CPM	52	38
etc.	52	41

図表 6. 政党支持率（左が20代調査、右が全年代調査）

20代調査			全年代調査			
	自民支持層		無党派層			
全体	34	16	50	38	18	44
	民主3、維新4、公明3、みんな3、共産2、社民1					
固定保有層	32	15	53	38	20	42
	民主3、維新3、公明3、みんな3、共産2、社民1					
CPO	36	14	50	34	17	49
	民主4、維新4、公明2、みんな2、共産2					
CPM	32	16	52	39	15	46
	民主4、維新3、公明3、みんな4、共産2					
etc.	30	17	53	38	22	40
	民主1、維新3、公明3、みんな3、共産5、社民1、他1					
	民主5、維新3、公明4、みんな1、結い1、共産3、社民1					
	民主5、維新3、公明4、みんな1、結い1、共産4、生活1、社民1					
	民主5、維新3、公明4、みんな3、共産2					
	民主4、維新3、公明3、みんな1、共産2、生活1、社民1					
	民主7、維新3、公明4、みんな1、結い1、共産5、社民1					

4-3. フェイス項目別

内閣支持や政党支持、および、その他の質問で、携帯限定層の影響の度合いを評価するときには、各フェイス項目で携帯限定層の構成がどのように変化するかを理解しておくことが重要である。1つの例として、内閣支持率の年代別クロス集計（図表7）と、上記（図表5）の携帯限定層や携帯中心層における集計を、図表4の年代別構成割合をもとに、見比べてみる。

図表 7. 年代別の内閣支持率（左が20代調査、右が全年代調査）

20代調査			全年代調査		
	支持する	支持しない		支持する	支持しない
全体	53	33	全体	52	39
20~24歳	51	34	20代	55	34
25~29歳	54	32	30代	57	36
			40代	52	39
			50代	49	40
			60代	48	46
			70歳以上	55	38

全年代調査でみると、携帯限定層の内閣支持率が多めになっているが、それは携帯限定層の中では20代、30代が多く、もともと若年層の内閣支持率は高めであったため、その「年代効果」によってCPOでの内閣支持率が高くなったのだろうと推察できる。同様にして、20代調査ではCPOは「25~29歳」に多いことに引っ張られて、若干高くなる傾向が出てくるということが分かる。次頁の図表8は、年代以外のフェイス項目における携帯限定層、携帯中心層の割合を一覧にしたものである。

図表 8. 各項目の携帯限定層と携帯中心層 (左が20代調査、右が全年代調査)

20代調査

		[有意差の検定] ▲▼は有意水準95%、△▽は90%			
	割合	度数	携帯限定層	携帯中心層	それ以外
20代全体	100%	1839	36%	56%	8%
あなたは、男性ですか。女性ですか。					
男性	47.1%	867	35%	58%	7%
女性	52.5%	965	37%	55%	8%
無回答	0.4%	7	-	-	▲ 100%
あなたのご職業についてお聞きします。					
※事務・技術職層	36.9%	679	▲ 44%	▼ 50%	▽ 6%
※製造・サービス従事者層	29.3%	539	36%	57%	8%
自営業者層	2.2%	41	37%	56%	7%
農林漁業者層	0.8%	14	14%	64%	21%
主婦層	6.6%	121	▲ 68%	▼ 27%	5%
学生	17.3%	318	▼ 17%	▲ 73%	10%
その他・無職層	6.1%	112	▼ 14%	▲ 73%	13%
無回答	0.8%	15	▽ 7%	33%	▲ 60%
(※の人に) あなたの雇用形態は、次のうちどれにあてはまりますか。					
公務員の正規雇用	6.2%	114	▲ 49%	▼ 43%	8%
民間企業や団体の正規雇用	41.1%	756	▲ 42%	▽ 53%	▼ 5%
派遣社員やアルバイトなどの非正規雇用	16.0%	294	32%	59%	10%
その他・答えない	2.9%	54	44%	50%	6%
非該当	33.8%	621	▼ 27%	▲ 62%	▲ 11%
あなたは、現在、結婚していますか。					
未婚	78.1%	1437	▼ 27%	▲ 64%	△ 9%
既婚(配偶者あり)	20.3%	373	▲ 71%	▼ 26%	▼ 3%
既婚(離別・死別)	0.8%	15	47%	53%	-
その他・答えない	0.8%	14	14%	36%	▲ 50%
あなたの最終学歴を教えてください。					
小・中学校	3.8%	70	44%	51%	4%
高校	24.1%	443	37%	57%	7%
専門学校	15.8%	291	41%	51%	8%
短大・高専	8.0%	147	36%	56%	7%
大学	44.2%	812	▼ 32%	▲ 60%	8%
大学院	3.3%	61	▲ 61%	▼ 33%	7%
その他・答えない	0.8%	15	13%	27%	▲ 60%
あなたには、中学生以下の子どもがいますか。					
いる	13.3%	245	▲ 61%	▼ 33%	5%
いない	85.9%	1580	▼ 32%	▲ 60%	8%
無回答	0.8%	14	-	36%	▲ 64%
お宅の家族構成は、次の中ではどれにあてはまりますか。					
親、子、孫の3世代以上	18.5%	341	▼ 8%	▲ 82%	10%
親と子の2世代	52.3%	962	▼ 19%	▲ 71%	▲ 10%
夫婦だけの1世代	9.7%	179	▲ 82%	▼ 16%	▼ 2%
一人暮らし	16.1%	296	▲ 93%	▼ 6%	▼ 1%
その他・答えない	3.3%	61	46%	▼ 34%	▲ 20%
あなたの年収は、およそどのくらいになりますか。					
200万円未満	47.0%	864	▼ 27%	▲ 63%	▲ 10%
200~400万円	40.2%	740	▲ 40%	55%	▼ 5%
400~600万円	8.3%	153	▲ 63%	▼ 30%	7%
600~800万円	0.7%	13	▲ 77%	▽ 23%	-
800~1000万円	0.3%	5	80%	-	20%
1000万円以上	0.1%	2	50%	50%	-
無回答	3.4%	62	34%	47%	▲ 19%
では、お宅の世帯全体での年収は、およそどのくらいになりますか。					
200万円未満	7.0%	129	▲ 71%	▼ 22%	7%
200~400万円	26.2%	481	▲ 54%	▼ 42%	▼ 5%
400~600万円	24.7%	455	37%	57%	6%
600~800万円	16.5%	303	▼ 21%	▲ 70%	9%
800~1000万円	10.0%	184	▼ 16%	▲ 72%	12%
1000万円以上	10.0%	184	▼ 14%	▲ 74%	11%
無回答	5.6%	103	▼ 19%	60%	▲ 20%
あなたは、インターネットを使っていますか。					
使っていない	7.5%	138	▲ 52%	▼ 38%	9%
月に数回使う	9.9%	182	29%	62%	9%
週に数回使う	16.0%	295	32%	62%	6%
毎日1時間程度使う	26.6%	490	40%	54%	6%
毎日2時間程度使う	15.8%	290	38%	53%	9%
毎日3時間以上使う	23.1%	424	▽ 31%	60%	9%
その他・答えない	1.1%	20	30%	▽ 30%	▲ 40%

全年代調査

		[有意差の検定] ▲▼は有意水準95%、△▽は90%			
	割合	度数	携帯限定層	携帯中心層	それ以外
全年代	100.0%	2045	13%	40%	47%
あなたは、男性ですか。女性ですか。					
男性	47.2%	965	12%	▲ 45%	▼ 44%
女性	51.5%	1053	13%	▼ 36%	▲ 51%
無回答	1.3%	27	4%	26%	△ 70%
あなたのご職業についてお聞きします。					
※事務・技術職層	26.9%	551	△ 15%	▲ 55%	▼ 29%
※製造・サービス従事者層	17.7%	362	▲ 22%	▲ 50%	▼ 28%
自営業者層	6.6%	135	▼ 4%	46%	50%
農林漁業者層	2.8%	56	5%	36%	59%
主婦層	17.0%	348	11%	▼ 28%	▲ 61%
その他・無職層	27.0%	552	▼ 7%	▼ 25%	▲ 67%
無回答	2.1%	42	17%	26%	57%
(※の人に) あなたの雇用形態は、次のうちどれにあてはまりますか。					
公務員の正規雇用	4.3%	87	20%	41%	39%
民間企業や団体の正規雇用	26.2%	536	▲ 19%	▲ 57%	▼ 25%
派遣社員やアルバイトなどの非正規雇用	11.6%	238	16%	▲ 51%	▼ 33%
その他・答えない	2.6%	54	19%	50%	▽ 31%
非該当	55.3%	1130	▼ 8%	▼ 29%	▲ 63%
あなたは、現在、結婚なさっていますか。					
未婚	19.4%	397	▲ 22%	▲ 55%	▼ 23%
既婚(配偶者あり)	65.9%	1348	▼ 10%	▽ 38%	▲ 52%
既婚(離別・死別)	12.5%	256	16%	▼ 30%	△ 54%
その他・答えない	2.2%	44	5%	▼ 14%	▲ 82%
あなたの最終学歴を教えてください。					
小・中学校(または旧制高等小学校)	12.6%	258	8%	▼ 25%	▲ 67%
高校(または旧制中学、高等女学校など)	41.0%	838	▼ 10%	39%	▲ 51%
専門学校	10.4%	213	17%	44%	▼ 38%
短大・高専	8.6%	175	11%	▲ 52%	▼ 37%
大学	23.7%	485	▲ 18%	44%	▼ 39%
大学院	2.2%	44	▲ 27%	45%	▽ 27%
その他・答えない	1.6%	33	6%	21%	▲ 73%
あなたのお住まいは、次のうちどれですか。					
持ち家(一戸建て)	67.0%	1370	▼ 4%	△ 42%	▲ 54%
持ち家(マンション・アパートなどの集合住宅)	10.6%	218	13%	42%	45%
賃貸住宅・社宅(一戸建て)	3.4%	70	▲ 26%	40%	34%
(マンション・アパートなどの集合住宅)	16.8%	344	▲ 42%	▽ 33%	▼ 24%
その他・答えない	2.2%	44	18%	▼ 16%	△ 66%
それでは、お宅にお住まいのご家族の人数は何人ですか。					
1人暮らし	11.4%	234	▲ 41%	▼ 26%	▼ 33%
2人	28.8%	588	11%	▼ 29%	▲ 59%
3人	24.2%	495	▽ 9%	▲ 46%	44%
4人	18.2%	372	▽ 9%	▲ 50%	▽ 41%
5人	9.0%	185	▼ 5%	△ 48%	46%
6人以上	7.1%	145	▼ 5%	△ 50%	46%
無回答	1.3%	26	8%	▼ 12%	▲ 81%
あなたの生活水準は、次の中ではどこに入るとお思いますか。					
上の上	0.5%	10	-	50%	50%
上の下	1.6%	34	9%	39%	52%
中の上	14.6%	299	▼ 7%	45%	47%
中の中	38.2%	782	12%	42%	46%
中の下	25.8%	528	15%	36%	49%
下の下	12.2%	249	16%	38%	46%
下の下	4.8%	98	19%	40%	41%
無回答	2.3%	47	9%	▽ 21%	▲ 70%

図表8の20代調査では、特徴的なのは「▲」印が付いた（有意水準95%で20代全体との有意差がある）項目で、20代では携帯限定層が多いのは、以下のような層である：①職業では「事務・技術職層」「（民間企業などの）正規雇用層」「主婦層」、②婚姻状況では「既婚（配偶者あり）」、③家族構成では「一人暮らし」「夫婦だけの1世代」、④自身の年収では「400～600万円」より多い層、逆に世帯全体の年収では「200～400万円」より少ない層。

5. 20代携帯限定層の意識分析

ここからは、20代調査で明らかになった「20代の携帯限定層」が持つ特徴的な意識を紹介し、フェイス項目別の結果を同時に見ることで、世論調査でどのような性質に注目することが重要か、について考察する。

5-1. 内閣支持率と政党支持率

世論調査の基幹質問である「内閣支持」「政党支持」の調査結果を分析する。（以下のグラフで、クロス項目名の前に「☆」があるのは携帯限定層が全体と比べて多い層、「★」があるのは携帯限定層が全体と比べて少ない層を表す）

図表9. 内閣支持率のクロス集計

	支持する	支持しない
20代全体	53	33
固定保有層	52	35
CPO	55	29
CPM	53	35
etc.	48	36
★20～24歳	51	34
☆25～29歳	54	32

	支持する	支持しない
☆ 事務・技術職層	55	31
☆ 主婦層	50	27
★ 学生	58	29
★ 未婚	52	34
☆ 既婚（配偶者有）	58	28
★ 親子2世代	49	36
☆ 夫婦1世代	63	26
☆ 一人暮らし	60	27

図表9のクロス集計の結果から、内閣支持率が携帯限定層では若干高くなった理由として、年代の効果（「25～29歳」が多いこと）、家族構成の効果（「夫婦1世代」「一人暮らし」が多いこと）が挙げられる。同様に、次の「政党支持」（図表10）を見てみると、CPOでは自民支持層が多めになっている。この理由として、年代の効果、家族構成の効果と、婚姻状況の効果（「既婚」が多いこと）が挙げられる。

図表 10. 政党支持率のクロス集計

	自民支持層	無党派層		自民支持層	無党派層
20代全体	34	50	☆ 事務・技術職層	36	48
固定保有層	32	53	☆ 主婦層	32	54
CPO	36	50	★ 学生	39	47
CPM	32	52	★ 未婚	32	52
etc.	30	53	☆ 既婚(配偶者有)	38	47
★ 20～24歳	32	53	★ 親子2世代	30	55
☆ 25～29歳	35	49	☆ 夫婦1世代	42	39
			☆ 一人暮らし	39	45

5-2. 投票行動（前回参院選）

「今年（2013年）7月の参院選の比例区で、どの政党またはどの政党の候補者に投票しましたか」と質問し、政党名と「投票しなかった」の12の選択肢から答えてもらったところ、図表11のように、携帯限定層は全体と比べても「投票しなかった」の回答が多いことが分かった。

図表 11. 投票行動のクロス集計（1）

	自民党	投票しなかった		自民党	投票しなかった
20代全体	30	42	☆ 事務・技術職層	33	36
固定保有層	30	39	☆ 主婦層	30	45
CPO	29	46	★ 学生	33	41
CPM	30	40	★ 未婚	28	42
etc.	30	36	☆ 既婚(配偶者有)	35	39
★ 20～24歳	27	46	★ 親子2世代	29	42
☆ 25～29歳	32	38	☆ 夫婦1世代	35	32
			☆ 一人暮らし	29	46

この携帯限定層の傾向は特徴的で、上記のクロス集計の中では唯一「一人暮らし」の人が「投票しなかった」が多めであることを除けば、携帯限定層と同じ傾向になるフェイス項目がなかなか見つからない（この家族構成についても、「夫婦1世代」では「投票しなかった」と答えた人は少なめであり、携帯限定層が多い傾向とは逆になる）。そこで、クロス集計を追加して「自身の年収」と「世帯の年収」についてもみしてみる。

図表 12. 投票行動のクロス集計（2）

		自民党	投票しなかった
自身の年収	★ 200万円未満	26	45
	200万円以上400万円未満	31	40
	400万円以上600万円未満	41	30
世帯の年収	☆ 200万円未満	22	50
	☆200万円以上400万円未満	25	47
	400万円以上600万円未満	32	40
	★600万円以上800万円未満	32	38

図表 12 によると、世帯の年収が少ないほど、「投票しなかった」の回答が多くなる傾向があり、携帯限定層が世帯年収の少ない層に多めであることと合致した。そのため、「世帯の年収」というフェイス項目も携帯限定層の性質を調べる上で重要なパラメータとなる可能性がある。

5-3. 政治・社会関心度

政治や社会への関心があるかどうかについて、「政治や経済、社会の動きに関心があるほうですか。関心はないほうですか」と聞いたところ、全体と比べて携帯限定層の方が「関心があるほう」と答えた人が若干多かった。

図表 13. 政治・社会関心度のクロス集計

		関心があるほう	関心はないほう
20代全体		47	50
固定保有層		45	51
CPO		50	47
CPM		45	51
etc.		47	50
★ 20～24歳		41	56
☆ 25～29歳		52	44
事務・技術職層	☆	51	46
主婦層	☆	46	48
学生	★	48	50
未婚	★	46	51
既婚(配偶者有)	☆	51	45
親子2世代	★	44	53
夫婦1世代	☆	59	37
一人暮らし	☆	53	44

図表 13 で分かるとおり、政治や社会への関心は、年代別では「25～29歳」、家族構成では「夫婦1世代」「一人暮らし」、婚姻状況では「既婚」の方が高めの傾向があり、これらは全て携帯限定層が多めの層でもある。

5-4. 目標設定の高さ

20代調査では、「目標を設定するとき、実力よりも高めの目標にして努力するほうですか。実力に見合った目標にしてあまり無理をしないほうですか」という質問をしている。この質問に対し、「高めの目標」と答えたのは携帯限定層が多めだった。

図表 14. 「目標設定の高さ」のクロス集計

	高めの目標	実力に見合った目標		高めの目標	実力に見合った目標
20代全体	36	61	☆ 事務・技術職層	39	58
固定保有層	32	64	☆ 主婦層	33	64
CPO	41	56	★ 学生	41	55
CPM	32	64	★ 未婚	35	61
etc.	32	63	☆ 既婚(配偶者有)	38	60
★ 20~24歳	35	62	★ 親子2世代	33	63
☆ 25~29歳	36	60	☆ 夫婦1世代	38	60
			☆ 一人暮らし	46	51

この質問では「20~24歳」と「25~29歳」の間には差がなく、家族構成が「夫婦1世代」「一人暮らし」である層が「高めの目標」と答える比率がより多くなる様子が見られた。

6. まとめ

20代の携帯限定層は、25~29歳、正規雇用の労働者、既婚者、一人暮らし、世帯年収が低い、といった層に多いことが分かった。彼らの意識は、「自身の人生に対するアクティブ・活発な考え方をもち、政治に対する関心も若干高めだが、選挙では投票意欲は低め」であるといえるだろう。

7. おわりに

本稿では、全国の20代から対象者を選んだ郵送調査の結果から、20代の携帯限定層の構成や意識の違いについて分析結果を報告した。携帯限定層の割合が今後も増えていくと、携帯限定層のフェイス構成をRDD調査の集計ウェイトに反映する必要性や、携帯限定層にもアプローチする別の手段について考える必要が出てくるだろう。

(朝日新聞社)

<参考文献>

松田映二「RDD調査の今後について—増加する「携帯限定層」の影響を見積もる—」『政策と調査』世論・選挙調査研究大会記念号、3-30、2012